2012 年 6 月 28 日 株式会社アサツー ディ・ケイ

2011.9.11 から、様々な想いを抱え迎えた 2012.3.11 追悼式までをおさめた、 第 43 回講談社出版文化賞「写真賞」受賞者の写真集第 2 弾を刊行

『南三陸から vol.2 2011.9.11~2012.3.11』

株式会社アサツー ディ・ケイ (本社:東京都中央区 代表取締役社長:清水與二 以下 ADK)は、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町で、震災後から現地の様子を撮影し続けている佐藤信一さんの写真集**『南三陸から** vol.2 2011.9.11~2012.3.11』を刊行します。本書は、昨年 9 月に刊行された写真集**『南三陸から 2011.3.11~2011.9.11』**の第 2 弾となります。

なお、この写真集一冊につき300円を寄付します。さらに利益が発生した場合はその全額を南三陸町への支援金として寄付します。



く写真集概要>

『南三陸から vol.2 2011.9.11~2012.3.11』 著者:佐藤信一

オフィシャルサイト URL:

http://www.minamisanriku-kara.com/vol2

体裁:B5 判/96 ページ 刊行日:2012 年 6 月 30 日

定価:1,500円(税別)

*1冊に付き300円を南三陸町に寄付。

発行:ADK 南三陸町復興支援プロジェクト

発売:日本文芸社

『南三陸から vol.2 2011.9.11~2012.3.11』

震災後、宮城県南三陸町が初めて迎える秋、冬。本写真集からは、少しずつながらも歩みを進める南三陸町とそこに 生きる人々の姿を目にすることができます。写真が伝える復興への道筋は、私たちに、そして南三陸町の人々に「な つかしい未来」を思い描く、"希望"となっているようにも感じられます。

最新作(第2弾) 『南三陸から vol.2 2011.9.11~2012.3.11』について

第 1 弾の続編として、2011.9.11 から、様々な想いを抱えて迎えた 2012.3.11 の追悼式までを記録した写真が綴るフォトレターです。本写真集は、故郷と大切な人々の姿を未来に残す希望の写真集であり、10 年スパンの復興に際し、求められるのは「つづいていくこと」であるという考えのもと、刊行しています。

断片的な情報をショッキングに伝えるのではなく、被災地の本当の姿を伝える取り組みとして、今後も、 継続的・定期的に佐藤信一さんと現地の方々のご協力を賜りながら「南三陸から」を発刊していく計画です。

第1弾『南三陸から 2011.3.11~2011.9.11』について

東日本大震災で失った物や失った人を、悼みながらも前へ歩もうとする南三陸町の人々。そんな彼らと故郷の姿を 2011.3.11~2011.9.11 の半年間、自らも被災者である佐藤信一さんが撮り続けた写真集です。

なお同書は、震災に対する悲しみや怒りを淡々と表現し、同じ被災者であるからこそ撮り得たよそ行きではない 人々の姿の写真が評価され、第43回 講談社出版文化賞「写真賞」を受賞しています。



<著者プロフィール>

1966 年、宮城県本吉郡南三陸町生まれ。親子二代、南三陸町で写真館「佐良スタジ オ」を営んでいたが、2011年3月11日、東日本大震災の津波により自宅及び写真館 を失う。「一番苦しいときの写真を残す。この先、何が起きても、みんなが乗り越えられ るように」と、唯一持って逃げたカメラで地震直後から失われた街が元通りになるまで の道のりを現在も撮りつづけている。

<参考:『南三陸から vol.2 2011.9.11~2012.3.11』 写真集収録内容>



【大晦日の満天の星空(志津川小学校)】



【震災前に撮影された南三陸町の写真を眺める子どもたち】



【追悼式で合掌する人々(2012年3月11日)】



【千葉のり店に貼られたメッージ】

今日も太陽の光が面でたかい。そしてそれ以上に世界中の方の八の あたたかさを感じています。 今、私は夢に向かてつきすりんでいます。ありかとう。 在一不 夏蓮

「漁果の復興は過節によかできない」 そして、全世界へ次山の方々に復活した海で 恩坂しモレたい! 世界中分人及で守った二月海之町、 うんない場の中を用意して,から いっても帰ってまてね~/

迎帥 香蕉 学

E-105.代建於100年E.获物用三陸町E. 在100年5.在5克艾蘭亚龍島人間走過。 使味工工2/ 通節 員居 看本處 1...一十二 漁肝、魚屋、軒嘴、外切一夫なか 復興という大地大は、風をひに 康隆太、全球前進 知明了。

震災から一年を迎之今思う事

異型によりかけませたでは物理的理点となが、瞬には 着素 結果の日本政策をからまれました。 実におよりはよれないないないないのでの大きに実践が 表が多していません。 人の電子人の電小では実現と対象を表しました。 とも作者に自分になってものが、機関になったと をおけるが日本のとは実現と対象がないとのであかった。 をおけるは日本にはなったとなったとのであかった。 をおけるいました。

7亿万佛)及川南店 及川吉則

机机南水矿 鄉民 知答被

後田、強脚に向ってこれるにある。えるよこ大様 ご協力をいれたでからべきり今点をは見えずい。 あうたかて産災のすごれ 影トコセのれている 京京 应摄记证公司品品的社会和明白文献明日入日

本写真集に収録されたイメージ・写真をご利用の際、また、著者である佐藤信一さんへの取材等に付きましては、 【お問い合わせ先】に記載の担当までご連絡ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

【報道各位からのお問合せ先】

株式会社アサツー ディ・ケイ 広報室 担当:大内 TEL:03-3547-2003 / E-mail:mskr_prj@adk.jp

<参考:第1弾『南三陸から 2011.3.11~2011.9.11』写真集収録内容>

南三陸から

 $2011.3.11 \sim 2011.9.11$

1

佐写真

PHOTO LETTER FROM MINAMI SANRIKU BY SHINICHI SATO

あの日以来、今くの人たらが南三陸も移れて、にて撃いてくれていずす。本当に、にゅう意識の意持ちていいはいです。ありのかとうございます。 本は「町の小なな理具度の二代目、笛かんに支えられて今日まで規模しておまれた。 第日、私の機能した 香の味と見る見る見る見っていた。 ガルスの中のが現に出たて、現の成果をおは見せて、かいまけた生きで行わる」と 大切に関いました人しいた。 ホト・等表のカッマダンのと 寒じた、 私の応も家もでできたされてけど、この町に生かされて導え悪人でさらき。それは ヤはり写真で関血できまそうなく感じています。 学業はありのままな写す。 時に本い場面に多っます。たからそのためにもからしてきめかなかっと、そのでしてはありた。 かりな人のか、ふるととくとっての一揆で、あたけのできなれる場合に、今で写るは未添く養のも、写真力なら色でで・・・・

顽强的 南三陸 佐藤信一

く写真集概要>

『南三陸から 2011.3.11~2011.9.11』

著者:佐藤信一

オフィシャルサイト URL:

http://www.minamisanriku-kara.com/

体裁:B5 判/96 ページ 刊行日:2011 年 9 月 27 日

定価:1,500円(税別)

*1冊に付き300円を南三陸町に寄付。

発行: ADK 南三陸町復興支援プロジェクト

発売:日本文芸社







